

学生の健康、健康診断に関する意識調査

森重美奈子* 河内山朝子* 田中由紀子*
齋藤 圭美* 和井内由充子* 齊藤 郁夫*

本大学の学生定期健康診断受診率は、5年前の1995年頃までは70%前後でほぼ横ばいであったが、ここ数年は減少傾向にある。2000年度定期健康診断受診率は、全キャンパスで64%，日吉キャンパスで61%であった（図1）。

この受診率低下の原因を把握し、受診率向上させるための一つの手段として、学生の健康、健康診断に関する意識調査を行った。

対象と方法

日吉キャンパスで2000年度定期健康診断を受診し、受診日に配布したアンケートに回答の

あった男性5,142名、女性1,300名の計6,442名を対象とした。有効回答率は81%であった。

なお、日吉キャンパスには、文学部1年生、経済学部・商学部・法学部・医学部の1、2年生、理工学部の1年生から大学院までの学生が在籍している。

アンケートの項目は、現在の学生の関心事、健康診断の受診・未受診理由、健康を意識づける可能性のある健康セミナーや健康相談を希望するか、などとした。

アンケート収集結果については、全体の割合を示し、今回は特に男女別にカイ二乗検定を用

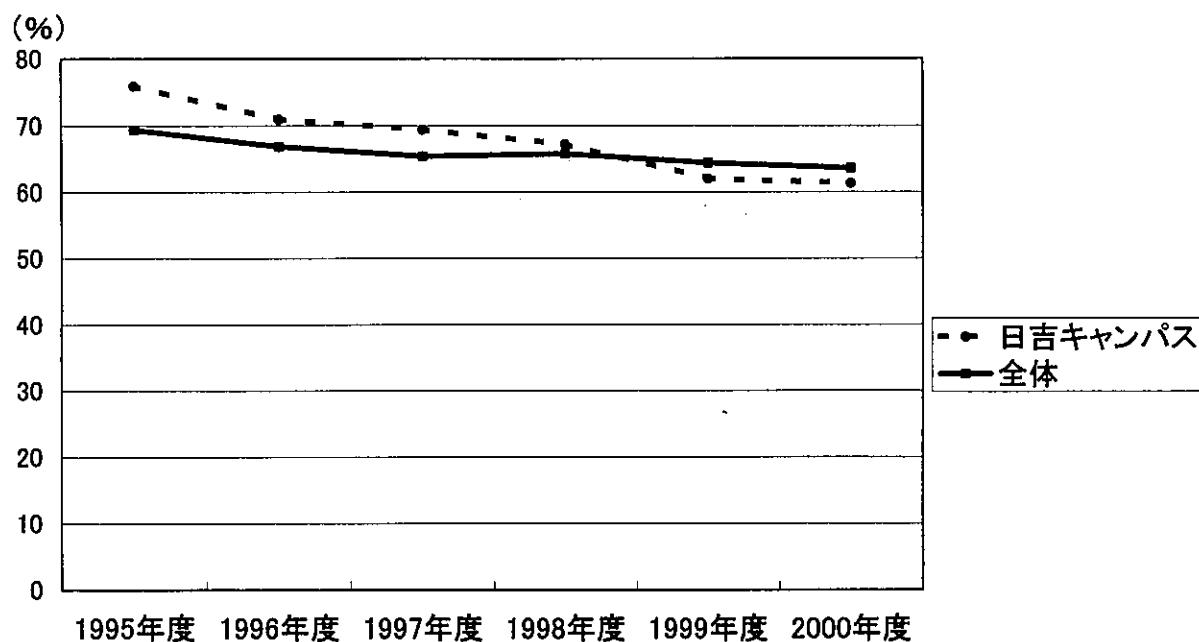


図1 健康診断受診率の推移

* 慶應義塾大学保健管理センター

学生の健康、健康診断に関する意識調査

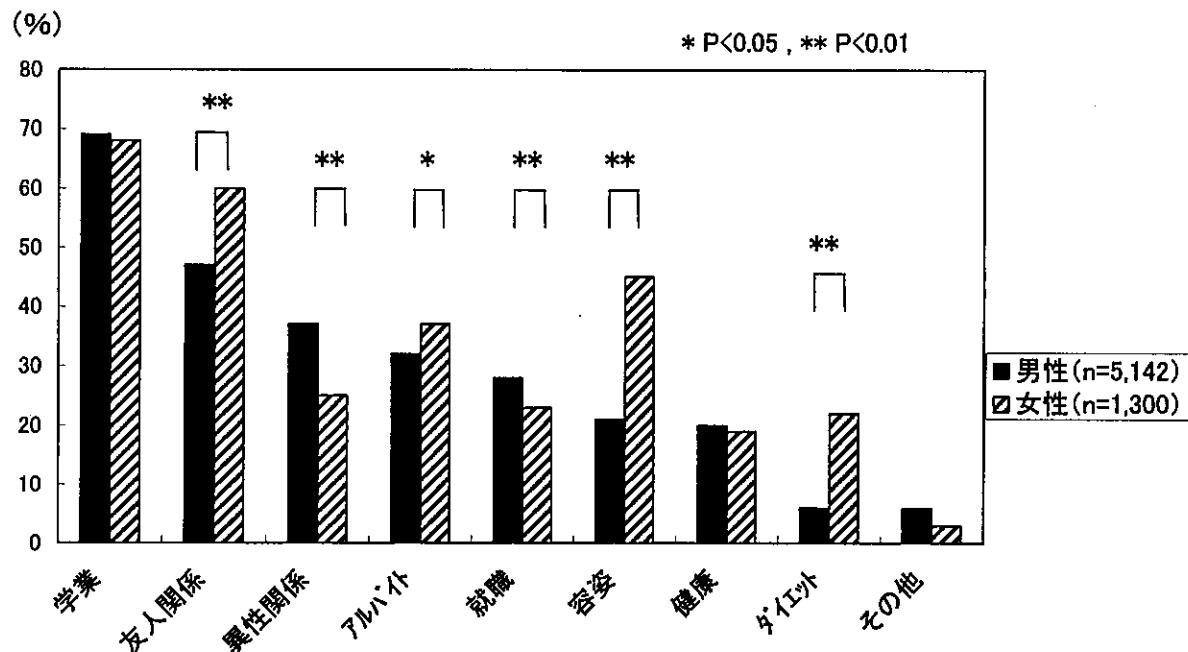


図2 現在学生が関心のあること

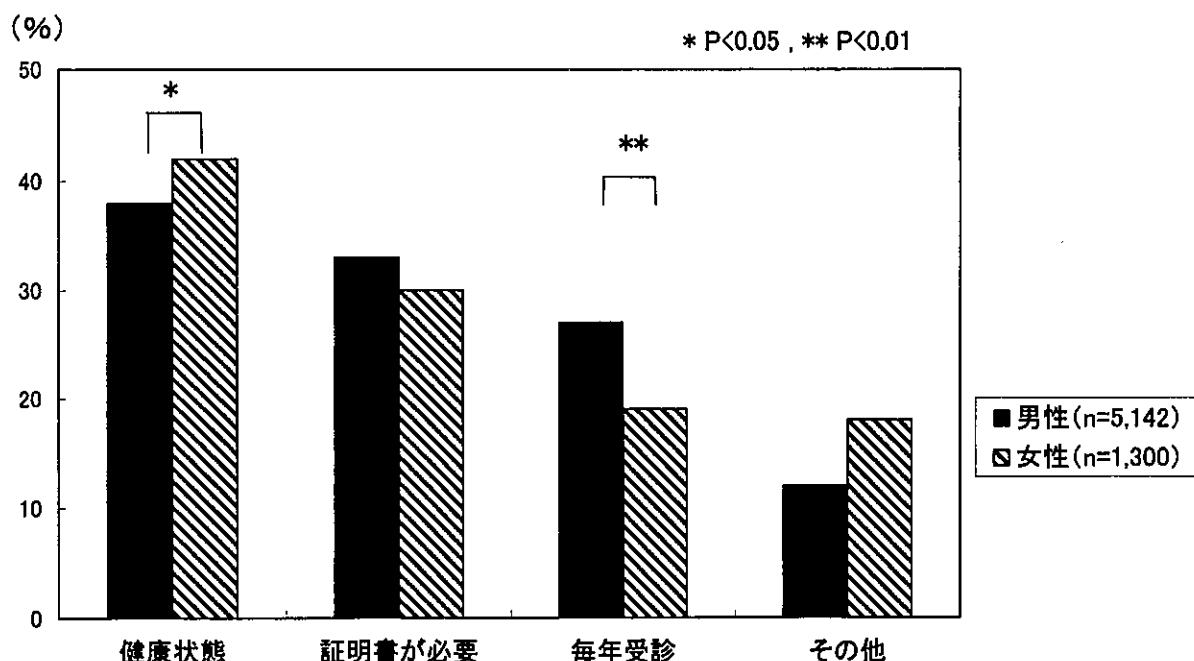


図3 今回健康診断を受診した理由

いて解析した。

成績

現在学生が関心のあることについては、全体では「学業」が第1位で 68 %、以下「友人関係」、「異性関係」、「アルバイト」の順であった。「健康」への関心は 7位の 20 %であった。男性

では、「異性関係」、「就職」が女性より有意に多く、女性では、「友人関係」、「アルバイト」、「容姿」、「ダイエット」が男性より有意に多かった(図2)。

今回健康診断を受診した理由について、全体で一番多かったのは、「健康状態を知りたい」の 39 %であった。「毎年受診しているから」は、

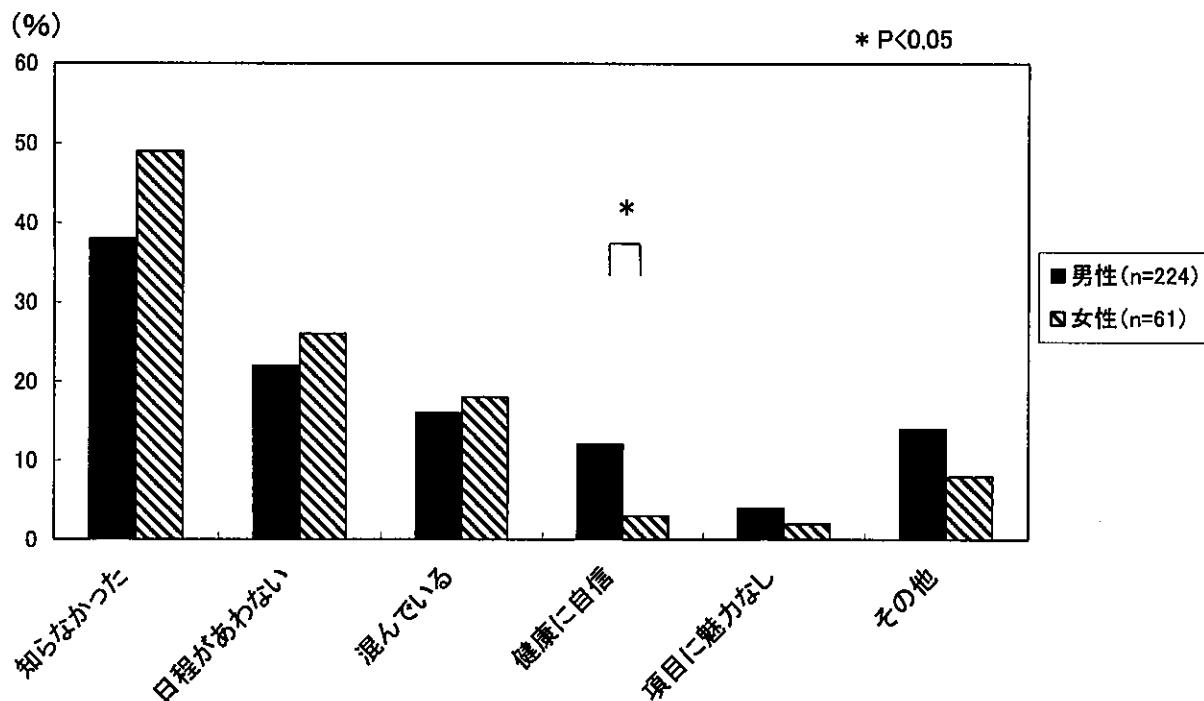


図4 過去に健康診断を受診していない理由

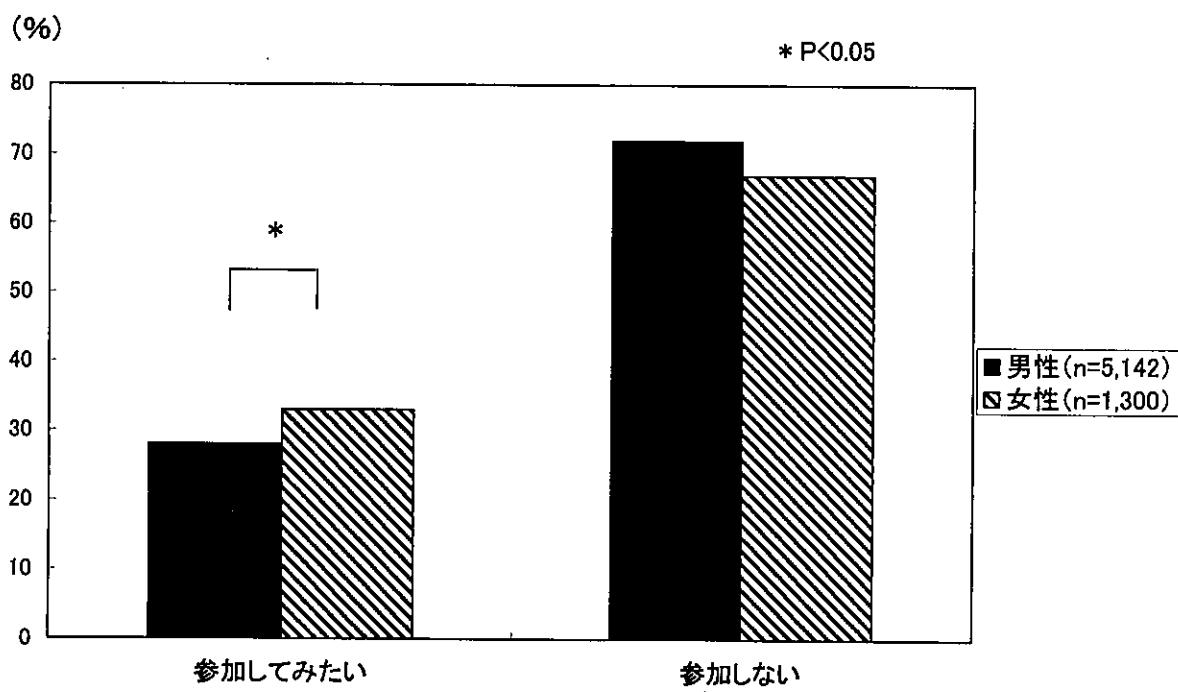


図5 健康セミナー参加への意志の有無

男性が女性より有意に多く、「健康状態を知りたい」は、女性が男性より有意に多かった(図3)。

新入生以外で、定期健康診断を過去に一度も受診していなかった学生は、2,965名中285名の10%であった。過去に健康診断を受診しなかった理由について、全体では「知らなかった」

が一番多く40%，次に「日程があわない」などがあげられた。「健康に自信がある」は、男性が女性より有意に多かった(図4)。

健康セミナーに参加したい学生は、6,442名中1,841名で、全体の29%であった。男女別では、女性の参加希望者が男性より有意に多かっ

学生の健康、健康診断に関する意識調査

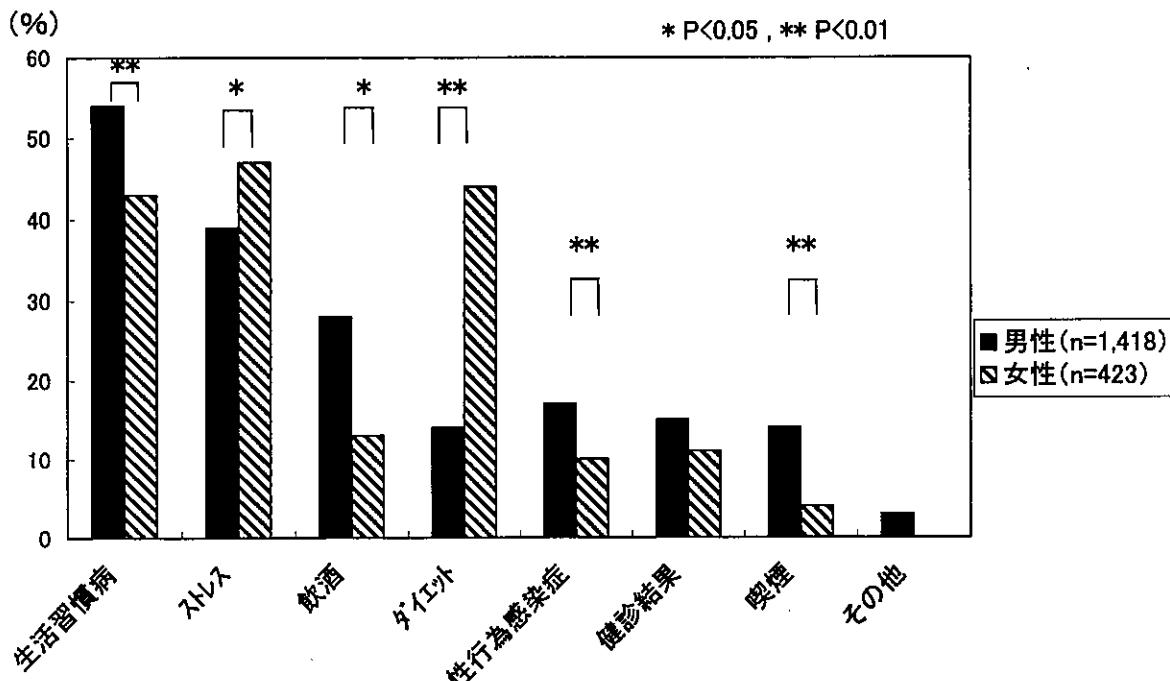


図6 健康セミナーで希望する内容

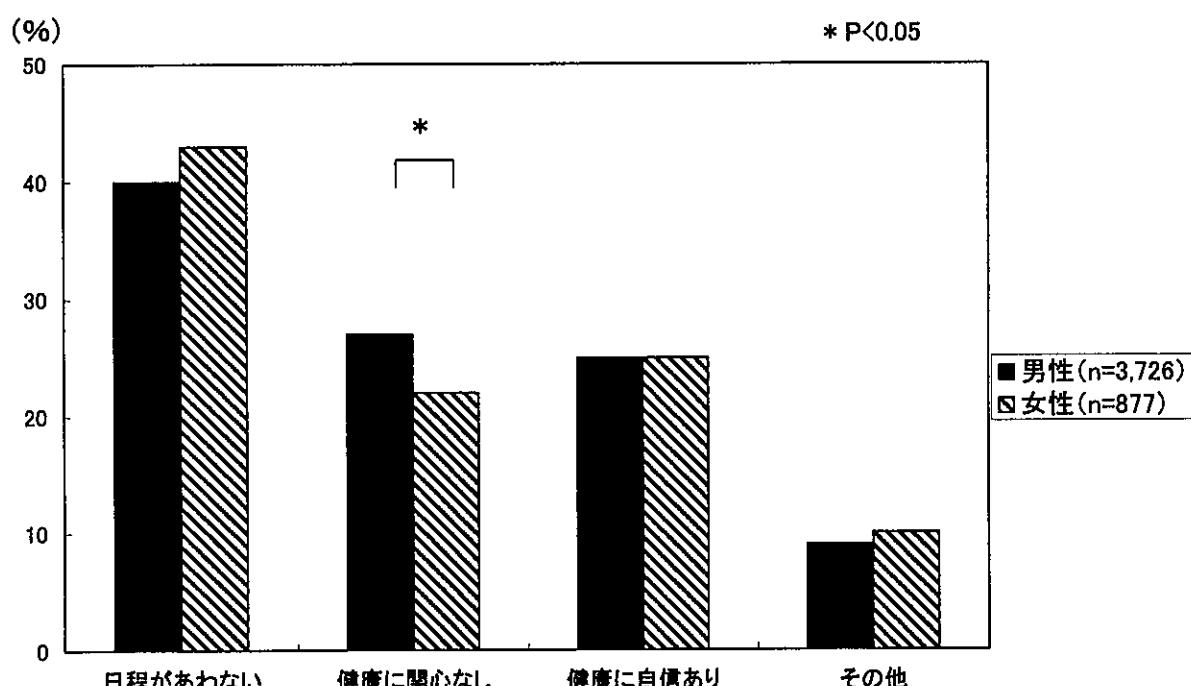


図7 健康セミナーへ参加する意志のない理由

た(図5)。健康セミナーで希望する内容について、全体では「生活習慣病」が一番多く51%，以下「ストレス」、「飲酒」、「ダイエット」の順となった。男性では、「生活習慣病」、「飲酒」、「性行為感染症」、「喫煙」が女性より有意に多く、女性では、「ストレス」、「ダイエット」が男

性より有意に多かった(図6)。一方、健康セミナーに参加する意志のない学生は6,442名中4,601名の71%であった。全体の理由では、「日程があわない」が一番多く40%，次に「健康に関心なし」などがあげられた。男性では、「健康に関心なし」が女性より有意に多かった(図7)。

個別健康相談を希望する学生は、6,442名中1,176名で全体の18%であった。男女間の有意差はなかった（図8）。

考 察

今回の検討で、現在の学生の関心事のなかで、健康に対する関心は第7位であり、決して高くはなかった。しかし、健康診断受診理由のなかで、「健康状態を知りたい」が第1位であり、予想以上に健康診断と健康が結びついているようと思われた。今後、健康に対する関心を高めることで、受診率をさらに上昇させることができるものかもしれない。

健康に対する関心を高めるためには、健康セミナーや個別健康相談が有用である可能性があり、学生に対して魅力のある内容のものを実施するとともに、日程の調整を図ることが重要と思われた。また、男女で関心事や希望しているセミナーの内容が異なっており、対象を絞る場合には、その点を考慮する必要があると思われた。

健康診断については、過去に一度も健康診断を受診しなかった理由で、「知らない」が

第1位、「日程があわない」が第2位であった。この解決策としては、学事センターなど大学の他部署と連携することやインターネットの活用など、いかに周知徹底させていくか、日程を調整していくかが今後の課題である。

総 括

1. 日吉キャンパスでの大学生定期健康診断時に、健康、健康診断に関する意識調査を行った（男性5,142名、女性1,300名）。
2. 学生の健康に対する関心は高くなかったが、健康診断受診理由としては、現在の健康状態を知りたいが一番多かった。
3. 健康診断未受診理由としては、健康診断実施日を知らなかったが一番多かった。
4. 以上より、いかにして健康診断の周知徹底を図るか、健康を意識させる動機づけを行っていくかが今後の課題である。

文 献

- 1) 慶應義塾大学保健管理センター：慶應義塾大学保健管理センター年報、1995～2000

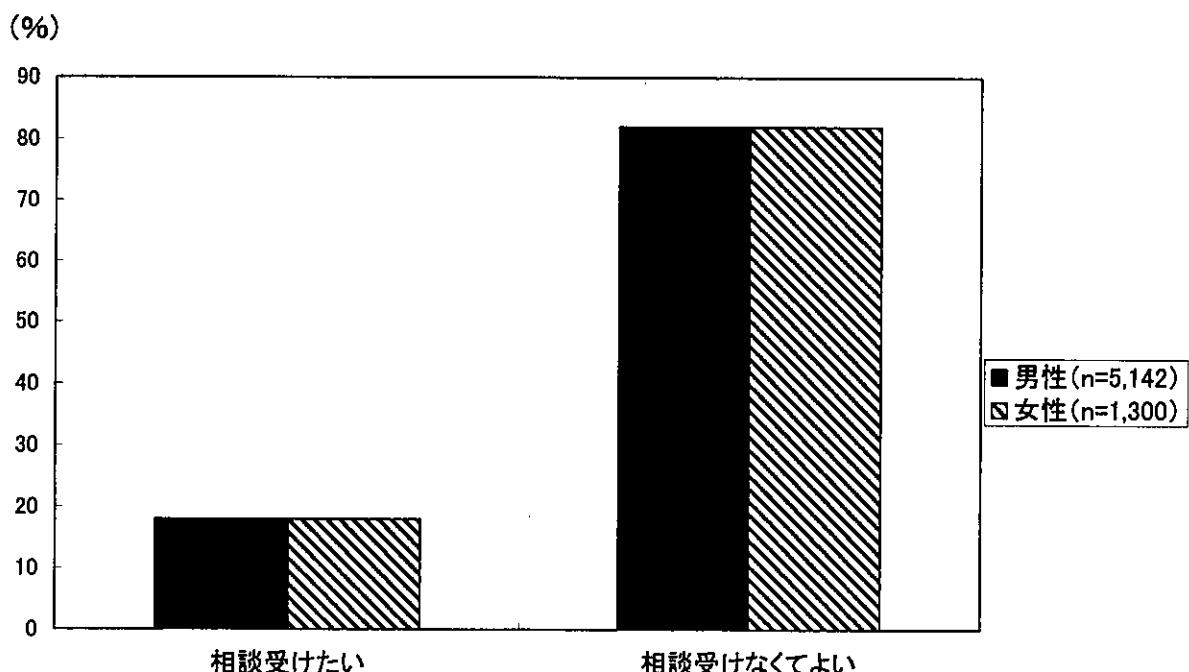


図8 個別健康相談への希望の有無